

E

平成29年度 数 学 簿 記

問 題 冊 子

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子は、5 ページに組んである。
なお、落丁、乱丁及び印刷不鮮明なものがあればすぐに申し出ること。
3. 解答用紙に必ず本学の受験番号を記入すること。各解答用紙に受験番号欄が2箇所ある。
4. 解答は、問題番号に対応する解答用紙に記入すること。
なお、赤で記入すべき箇所も黒で記入してよい。
5. 記入した解答用紙は、裏返して机の上に置くこと。
6. 解答用紙の※の欄は記入しないこと。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

1 複式簿記の歴史について説明しなさい。

2 次の取引を推定しなさい。(単位：円)

① (借) 現 金 20,000 (貸) 商 品 券 20,000

② (借) 商 品 券 20,000 (貸) 売 上 30,000

現 金 10,000

③ (借) 現 金 50,000 (貸) 借 受 金 50,000

④ (借) 借 受 金 50,000 (貸) 売 掛 金 50,000

3 A 商店では仕訳帳の代わりに、入金伝票・出金伝票・振替伝票を用いる 3 伝票制を採用している。

A 商店の当期(第 t 年 1 月 1 日～第 t 年 12 月 31 日)における次の取引について、理論上可能な 3 つの異なる方法で各伝票に取引発生日の日付、(勘定)科目、金額を記入しなさい。各伝票の科目に人名勘定(例：〇〇商店)を使用しないこと。

3 月 30 日

B 商店へ商品 30,000 円を売上げ、代金のうち 10,000 円は現金で受取り、残額は掛けとした。

4

以下の問いに答えなさい。なお、問1と問2は独立している。

問1 X商店の次の取引について、本店と支店の側から仕訳をしなさい。

- (1) 本店は支店に現金 550,000 円を送付し、支店はこれを受け取った。
- (2) 支店は本店の売掛金 1,200,000 円を現金で回収し、本店はこの報告を受けた。
- (3) 本店は支店の買掛金 770,000 円を小切手を振り出して支払い、支店はこの報告を受けた。
- (4) 本店は支店に商品 840,000 円(原価)を送付し、支店はこれを受け取った。
- (5) 本店は支店の支払家賃 140,000 円を現金で支払い、支店はこの連絡を受けた。

問2 Y商店の本店・支店の貸借対照表と損益計算書、および未達事項は、以下の資料のとおりである。未達事項を整理し、本支店合併精算表を作成しなさい。なお、本店の貸借対照表と損益計算書は、支店の決算報告が届く前のものである。(単位はすべて千円)

また、解答用紙の空欄すべてをうめる必要はない場合もある。

<資料>

本店貸借対照表

20××年12月31日

現金	4,800	買掛金	7,200
売掛金	8,000	借入金	9,000
商品	6,000	資本金	26,000
建物	11,000	当期純利益	2,300
備品	5,500		
支店	9,200		
	<u>44,500</u>		<u>44,500</u>

支店貸借対照表

20××年12月31日

現金	1,600	買掛金	6,300
売掛金	5,200	本店	8,300
商品	4,500	当期純利益	900
備品	4,200		
	<u>15,500</u>		<u>15,500</u>

本店損益計算書

20××年1月1日から20××年12月31日まで

売上原価	28,000	売上高	37,000
販売費及び一般管理費	6,100		
支払利息	600		
当期純利益	2,300		
	<u>37,000</u>		<u>37,000</u>

支店損益計算書

20××年1月1日から20××年12月31日まで

売上原価	11,000	売上高	17,000
販売費及び一般管理費	5,100		
当期純利益	900		
	<u>17,000</u>		<u>17,000</u>

未達事項

1. 支店から本店に送付した現金 1,100 が本店に未達である。
2. 本店から支店に送付した商品 200(原価)が支店に未達である。
3. 本店で回収した支店の売掛金 400 の通知が支店に未達である。

